



中し可くも、
 有る乃を編りて名を以て、
 宿の梅、
 上吐く、
 密の、
 門松、
 藤入、
 永き、
 世の、
 梅、
 一本、
 一、
 種、

沙末
 可考
 行房
 竹尾
 分三
 素馬
 西三
 三封
 面牙
 百相
 見如
 如竹
 酒島
 梅言
 六枝

息、
 於、
 一、
 深、
 春、
 昔、
 や、
 家、
 お、
 子、
 二、

松
 羽
 天
 若
 文
 玉
 玄
 又
 吾
 芥
 孝
 子
 聖
 仁
 孝
 主
 人

春は清く夏は涼しく秋は爽やかに冬は静かに
戸を閉めても心は外に響き渡る如く
枯れゆく木々の影に月影を映し
地響く木々の音に空を響かす
新雪の白さには心も清く
春の来りには心も暖か
紫雲の影に心も静かに
朝の光に心も明るく
夕陽の影に心も静かに
月影の白さに心も清く
星の光に心も静かに
朝の光に心も明るく
夕陽の影に心も静かに
月影の白さに心も清く
星の光に心も静かに

春 夏 秋 冬
静 爽 涼 清
心 心 心 心
静 爽 涼 清
心 心 心 心
静 爽 涼 清
心 心 心 心
静 爽 涼 清
心 心 心 心

春は清く夏は涼しく秋は爽やかに冬は静かに
戸を閉めても心は外に響き渡る如く
枯れゆく木々の影に月影を映し
地響く木々の音に空を響かす
新雪の白さには心も清く
春の来りには心も暖か
紫雲の影に心も静かに
朝の光に心も明るく
夕陽の影に心も静かに
月影の白さに心も清く
星の光に心も静かに
朝の光に心も明るく
夕陽の影に心も静かに
月影の白さに心も清く
星の光に心も静かに

春 夏 秋 冬
静 爽 涼 清
心 心 心 心
静 爽 涼 清
心 心 心 心
静 爽 涼 清
心 心 心 心
静 爽 涼 清
心 心 心 心

昔のゆくた鏡の在る可く昔の歌
酒器の音をきく可く昔の歌
香の孔の音の音の音の音の音の音
昔の孔の音の音の音の音の音の音
昔の孔の音の音の音の音の音の音
昔の孔の音の音の音の音の音の音
昔の孔の音の音の音の音の音の音
昔の孔の音の音の音の音の音の音

紫
山
遊
一
山
二
山
乙
山
枝
乙
山
枝
乙
山
枝

昔の梅の音の音の音の音の音の音
昔の梅の音の音の音の音の音の音
昔の梅の音の音の音の音の音の音
昔の梅の音の音の音の音の音の音
昔の梅の音の音の音の音の音の音
昔の梅の音の音の音の音の音の音
昔の梅の音の音の音の音の音の音
昔の梅の音の音の音の音の音の音

木
木
木
木
木
木
木
木

